



— 収集資料のご紹介! —

『西原中山家文書』

にしはらなかやま せんじよ

西原町の有形文化財である中山家文書は、内間御殿の御殿守を代々務める中山家で所蔵されています。

十八世紀～十九世紀にかけて記録されたもので、内間御殿の創建、由来、年中祭祀、内間ノ口継承や御殿に関わる祭祀について記されています。今回、中山家文書（全

八冊）の複製本

を全てデジタルデータにし、いつでもみることができるとなりました。（下写真）



『内間之御殿由来記』
中山靖章氏提供

玉那覇重善氏の写真

たまな はじちうぜん

右下の写真は、一九〇九年（明治四十二）七月に県会議事堂・県庁俵徳館玄関前（現・那覇市西町）

けんとくかん

で撮影されたものです。前列右から五番目に西原出身の玉那覇重善氏が写っています。玉那覇氏は一八七一年（明治四）九月に小那覇

で生まれ、沖縄県尋常中学校、東京帝国大学実科を卒業後、那覇税務署、中頭郡

青年会会長、

青島農工銀行

取締役、沖縄

実業銀行頭取、

沖縄県議会議

員（副議長）

を歴任した人物です。



第1回沖縄県議会議事参与員及県議員
野々村孝男氏提供

終戦後の教員免許状・昇級表

この度、町立図書館に一九五二年（昭和二十七）～一九六〇年（昭和三五）までの教員免許状（写真）や昇給表が七枚寄贈されました。二枚の教員免許状裏には、「沖縄文教学校修了」と記されています。文教学校は一九四六年一月に具志川村（現・うるま市）田場に開設された沖縄戦後初の教員養成機関です。

戦後の混乱期のなか、西原村出身者が教育に対して熱心に活動し

1952年11月1日教員免許状
城間明氏提供

ていた様子が分かると同時に、沖縄県の教職員の実態がわかる貴重な資料です。